

所信

2012年度 社団法人海部津島青年会議所

理事長 山崎拓史

<はじめに>

今回の東日本大震災並びに大津波による信じられない光景に目を疑い、大自然の恐ろしさに呆然としている自分に憤りを感じ、察するに余りある深い悲しみに涙が止まりませんでした。友人知人に心からの思いを馳せ、連絡を取り、安心したり、心が痛んだりを繰り返す中で、生きる上で当たり前だけれども大切なことを多く考えさせられました。

諸外国でこのような事態が起きた時には、市街地は無法地帯となり、暴行や略奪が頻発するのが常ですが、報じられる映像越しにとった日本人の行動は、誇りと自信に満ちた実に見事なものでした。かつて関東大震災の時に帝都復興院総裁に就任した後藤新平がやり遂げようとしたことは、環状線道路の敷設や震災復興公園等の建設をはじめとした帝都復興計画であり、それは現代までも視野に入れた壮大な近現代都市計画の実行でもありました。その後藤新平は、「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう」という“自治三訣”を遺しました。今回の震災は、時は流れても日本人の心の奥底に脈々とその教えが生き続けていることを世界に向けて証明したのです。被災者間においては、互いに譲り合い、助け合う場面が多くありました。国民は何か被災者のために役立つことができなかと心を砕き、莫大な義援金が集まり、大勢のボランティアが被災地に駆けつけました。自衛隊員や警察官は、身の危険を冒してまで任務を果たした者もいました。

私は、和を以て貴しとなし、人の気持ちや立場に配慮し、身勝手を深く恥じ、つましく控え目で、皆のために尽くすことをよしとする美徳に満ちた精神が日本民族の誇るべき「文化」であると思っています。世界に誇る美しい日本の「文化」をこの愛する地域で大切な人たちに承継していくことにこそ価値と義務を感じます。そしてそのことは、明るい豊かな社会の実現に向けて大いなる歩みになるとも確信しています。

<誠実の先にあるもの>

1つの約束を誠実に守れないところに、2つ目の約束はできないでしょう。与えられた仕事を誠実に果たされないところに、それ以上の仕事が舞い込むこともないでしょう。すべては小さな約束から物事が始まり、次第に大きな約束になっていきます。

日本人の誇るものの一つに勤勉性があり、根底には「誠実」という力があつたのではないのでしょうか。その繰り返しと積み上げが相手の予測を上回った瞬間に「信用」へと変わり、かけがえのない存在になります。

我われが「明るい豊かな社会の実現」という大きな約束を果たすためには、小さな一つひとつを決して疎かにすることがあつてはなりません。「誠実」なる想いと行動が基本姿勢

にあつてこそ、地域の輝ける未来を拓く能動者であり続けられるのです。

心に夢を！地に足を！
～ 誠実なる想いが未来を拓く ～

<感謝の念を新たな歩みに込めて>

1963年津島青年会議所の設立から、名称変更、社団法人格の取得等、組織として多くの過渡期を迎えてきました。2012年、当青年会議所は皆様のおかげ様をもち、創立50年という節目の年を迎えます。今我われが当たり前のように活動ができていることは、自らの青年期を青年会議所運動に費やしてこられた多くの先輩方によって築かれた信用の上に成り立っていることに、改めて心から感謝と敬意の念を表します。そして半世紀にわたる青年会議所運動に対するご理解とご支援をいただきました行政、関係諸団体をはじめとする海部地域住民の皆様へ心からの謝意を表すると同時に、皆様の負託にこれまで以上にお応えし続けてまいることをお約束申し上げます。明るい豊かなまちの実現に向けて、変革の能動者たらん青年としての使命を果たすべく、当青年会議所が進むべき方向を指し示してまいります。また、これまで多くの住民や諸団体とのかかわりの中から生まれた過去の事業を検証し、未来に向けて夢溢れる地域の魅力を先駆けて発信する青年会議所であり続ける必要があります。一人ひとりには、この地域に生まれ育ったという必然性が必ずあるはずですが、誇りをもって生業を営み、愛する家族を慈しみ、未来永劫に向けて命をつないでいくためには、青年会議所と住民が渾然一体となって協働する中からでしか真の郷土愛が芽生えることはありません。この地域を愛するオンリーワンの青年会議所にしかできない夢溢れる事業を展開し、未来に向けた希望の懸け橋を架けてまいります。

40歳を迎えた年から、時の移ろいは早いもので10年という月日が瞬く間に流れました。我われはこの地域で何を^{さんぜん}変革し、どのような進化を遂げることができたのでしょうか。歴史という時空に魂をもって燦然と輝き生き続けてきた文字や言葉は、LOMの財産となり、今日の我われの学びの基本的な姿勢として引き継がれてきました。

一灯を提げて暗夜を行く。暗夜を憂うこと勿れ。只だ一灯を頼め。 (佐藤一斉)

江戸時代後期の儒学者である佐藤一斉は、^{かんこつだいたい}換骨奪胎を得意としていました。すなわち、古い文章や言葉を新しい形に組み換えてアレンジし、もう一回意味を持たせることをするので、「一灯を提げて暗夜を行く」という比喩は、現代でいうならば景気の悪化や取り巻く環境の悪さを指しているように読み取れます。そこを提灯だけで行かなくてはいけないことに不安を憂っているとますます不安になり、なかなか一歩が踏み出せません。しかし「提灯だけ」ではなく、「提灯があるじゃないか。これで充分だ。」と、思って賭けてみた時

に、この提灯が非常に重たく感じられ、そこから希望を感じ取ることができ、力強く一步を踏み出す勇氣になるはずです。創造を進化させ、会員相互の心と心の^{かすがい}銕として共有できる行動指針を策定し、LOMの進むべき道を照らしてまいります。

<共助の精神からなる組織の樹立>

人間の本能でしょうか。人は楽しいと思ったことに対し、素直に反応し行動に移していきます。しかし、目的の無い楽しみというものは、その後何を生み出し、何を残し、どのような差別化を図ることができるのでしょうか。情報技術の革新により新たなコミュニティや情報の共有が便利になった半面、手間と時間のかかる人と人との心の交流が簡素化され希薄な結びつきになってきているように感じます。組織の進むべき方向に連動した目的を定め、義理、人情、やせ我慢という大切な意識を本能で楽しみあえる手法の中から育むことで、心と心が繋がりあった会員交流になると考えます。40歳までという限られた時間の中で、かけがえのない^{けんさん}研鑽を積みあ^{まこと}う真の同志として、大きな力をもって地域を牽引するためには、会員相互の心のベクトルを更に重ね合わせる必要があるのです。また、青年会議所には、多くの対外事業が点在しています。その一つひとつには意味があり、決して欠かすことができないものばかりです。経験の中から見てきたJC、対外事業に参加することで知るJC、多角的な側面からJCを知るということは自らの意識の変化を生み出し、社会を知るということに結果として結び付いてきます。昨年、当青年会議所は、30名に上る多くの出向者を輩出し、多彩な経験と豊富な知識を持ちかえってきてくれました。人は、どれだけ個人のポテンシャルが高くても、一人でできることには限りがあります。人を活かすことで自も活かされることに気づき、補完しあうことで $1+1=2$ という数式を超えることができるという実感を我われはもっと経験する必要があります。

会員の交流は、組織にとっての栄養剤であり推進力を生み出します。さざれ石のごとく、固く誠の絆が折り重なった組織からなる共助の精神が地域に溢れ出し、やがて大輪の花を咲きほこらせると確信しています。

<愛する故郷の共造>

子どもは社会の宝であり、教育は国家100年の計であります。そして、教育には家庭教育、学校教育、地域教育の3つに大きくは区分され、阿吽の呼吸のもと異なった性質の役割が果たされてきました。しかし、地域教育の軸を担ってきたコミュニティはライフスタイルの多様化により崩壊の兆しを見せ、家族関係においても一つの屋根の下から近くの屋根の下へと分散する傾向が見られます。つまり尊敬される大人の背中を見る機会が減少している点に問題があるのです。私たち大人は、経験に基づいて予測をもって先を見通すことができますが、子どもたちにとっては五感を使って多くのことを学びとり、先を見通す経験を積んでいる最中の年代に当たります。つまり一瞬一瞬が二度と戻らない貴重な体験期であり、人的環境や物的環境が子どもたちの成長に大きな影響をもたらします。行き

過ぎた詰め込み教育や先取り教育によって少年期に必要な体験を積むことなく社会に出るということは、舵を失った大型船と同じで、目的地が定まることはいつまでたってもないのではないのでしょうか。ドイツ語では教育をエアチーフンクといい、「引き出す」ということを意味します。子ども一人ひとりに違った顔があるように個性も異なります。誰にとっても得意なことがあれば苦手なことがあるのは当然です。つまり、すべての教育におけるそもそもの真髄は子どもたちのポテンシャルを発見し引き出すことに意義があり、そこに重きを置くべきであると考えます。人のお役に立ち、感謝され認められることで、自己肯定感が培われ、やがて生きる力の源となり、やさしくも強い尊敬される大人に成長していきます。私たち地域の大人が本質として重視する点を明確に理解し、心の座標軸を整えた毅然たる姿勢を持ちつつ、心の視線を合わせて共感し、小さなことにも感謝の気持ちが表現しあえる豊かな感性からなる真の青少年育成を行ってまいります。

活動エリアの多くは海拔0メートル地帯に位置し、水の恩恵を受ける半面水にまつわる災害と共存してきました。また、100年から150年周期で発生してきた連動型の可能性が指摘される東海・東南海・南海地震においても、30年以内に87%でマグニチュード8クラス以上の地震が発生するという確率が公表されました。残念ながら私たちには自然の脅威に太刀打ちできる力があるわけではありません。しかし、過去の教訓から学び、未来に備えることはできるはずです。我われのできる一つとして、説得力をもった情報とこの地域に則した正しい知識を備えることからなる防災意識の啓発をしていく必要があります。また、有事の際にこそ自らの篤実^{とくじつ}が試されます。この度の東日本大震災並びに大津波の発災があった日から数え、青年会議所は、わずか3日間で被災地へのルートを確保し、全国からの支援物資を被災地各所に届けることができました。まさに全国704の青年会議所同志とのネットワークをもつ我われだからこそできる迅速な行動ではないのでしょうか。いうまでもなく、私たちもいつ被災者になってもおかしくない状況下に身を置いています。迫りくる未来の危機に対し、組織の特性を十二分に理解し、地域に点在する「ひと」という資源を活かし、住民意識の啓蒙を図るためには、地域の絆が必要不可欠となります。まちの笑顔は我われの首題です。まちの空白は我われが回避すべき課題です。人とまちと青年会議所が一体となり、意識の啓発と啓蒙を通して地域の絆を育み、笑顔の途切れることがないまち海部津島を共造してまいります。

<自立した志高きひとづくり>

青年会議所の資源は、まぎれもなく「ひと」にあります。設立当初から絶えることなく継続している会員拡大運動は、この地域を明るい豊かなまちにしたいという想いを人に伝え呼応してもらうのみならず、自らのJC観や地域への想いを再確認するJC運動の根幹ともいべき基本運動です。この地域をより豊かな明るいまちにしたいという想いを抱き、実現するためには一人でも多くの同志の存在が必要です。良くも悪くも人は人によって成長し、互いを磨きあいます。まずは「自律」をすることで真の己を見つめなおし、新たな気

づきや学びに対して素直な心と貪欲な姿勢で受け入れていくことで、やがて「自立」をなすと考えます。つまり、「自律」からなる「自立」をする必要があるのです。やさしくあるためにまずは己を律し、強くもしなやかな社会性に磨きをかけることで、JAYCEEとしてのアイデンティティが輝きを増し、地域に求められる青年会議所であり続けられるのではないのでしょうか。青臭くも純粋な想いを左胸に輝くプライドに詰め込み、明るい豊かなまちの未来を拓くことこそが青年である我われの最善の仕事ととらえ、額に汗して共に歩める誠実な志高きJAYCEEを育成してまいります。

<おわりに>

我が国は、何も無い時代から何でもある時代になるまで、驚異的な早さで発展を遂げてきました。三種の神器と謳われたほどの革新的な目新しいモノの出現やバブルと称された大消費時代も終焉を迎えました。得たものも失ったものも多くありました。もう、新しいモノは充分ではないのでしょうか。少しだけ速度を落とし、そのエネルギーを人間の成長に使う時代に突入しています。「無い」幸せ、「直す」幸せ、「あるモノを大事にする」幸せ。この知恵を生み出す幸せをどこか古臭く、貧素に感じてしまうことが心の貧しさと比例しているように感じてなりません。「満つれば虧く」といいます。「どうすれば楽ができるか」と考える瞬間から発展ではなく衰退に向かっていくのです。時は流れ、時代は動けど、変えてはならないものがあるからこそ、積極的に変化を受け入れていかなければなりません。そのためには、変革の能動者たらん我われは誰のために、何のためにJC運動をしているのか、しっかりとしたアイデンティティと価値判断を見出し、自分づくりから会社づくり、そして地域づくりを考えていくこの青年期の学びが、これからの人生にとっていかに尊い時間であるかということを実感し、無限の可能性が潜在する青年会議所運動を力強く昇華していかななくてはなりません。

足並みを揃え、大志を抱き、共に夢を創造しようではありませんか。必要とされる人間であり続けるために、思想と哲学を身にまとい、ぶれない確固たる信念をもった誠の自分づくりが明るい豊かな社会をつくる大きな歩みとなるでしょう。心に大きな夢を描き、しっかりと地に足をつけ、志高き誠実な想いをもって、輝く明日への懸け橋を架けてまいります。

基本方針

<感謝の念を新たな歩みに込めて>

- ・ 感謝と尊敬の念を表現する創立50周年記念式典を行い、当青年会議所が進むべき方向を指し示してまいります。そして、この地域を愛するオンリーワンの青年会議所にしかできない夢溢れる事業を展開し、未来に向けた希望の懸け橋を架けてまいります。
- ・ これまでの歴史に心を重ね合わせ、創造を進化させることで未来を見据え、会員相互の心と心の鎚となる行動指針を策定します。

<共助の精神からなる組織の樹立>

- ・ 人を活かし、人に活かされ、補完しあうことで、会員相互が固く誠の絆で結ばれた組織を樹立します。

<愛する故郷の共造>

- ・ 心の座標軸を整えた毅然たる姿勢をもって、子どもたちのポテンシャルを引き出し、豊かな感性を育む青少年育成を行います。
- ・ 迫りくる未来の危機に向けて、住民意識の啓発と啓蒙を通して地域の絆を育み、笑顔が途切れることがないまち海部津島を共造します。

<自立した志高きひとづくり>

- ・ 全メンバーによる会員拡大運動を力強く推し進め、自立した志高き J A Y C E E を育成します。